



給食だより 1月号

令和6年12月25日
北区立稲付中学校
校長 名取 秀康
栄養士 大堀 亜希子

明日から冬休みを迎えます。冬休みは、年越しやお正月をはじめ、人日の節句などの年中行事があり、昔から食べ継がれている特別な行事食があります。地域や家庭に伝わる行事食を知り、日本の食文化を受け継いでいきましょう。

給食では、1月に「全国学校給食週間」があります。いつも食べている給食に目を向けて、給食の役割について考えてみましょう。

1月の給食目標 学校給食の歴史を知ろう



全国学校給食週間について

日本の学校給食は、明治22(1889)年に山形県の私立忠愛ちゅうあい小学校で始まりました。家が貧しい児童へ無償で昼食を出したのが始まりとされています。そこから全国各地へと広まってきました。

その後、学校給食は戦争のために一時中断されていましたが、戦後の食糧難により児童・生徒の栄養状態が悪化したことから、その必要性が叫ばれるようになり、アメリカのLARA(アジア救済公認団体)等の物資援助を受けて再開することになりました。

昭和21(1946)年12月24日に給食物資の贈呈式が行われ、この日を「学校給食感謝の日」と定め、その後、給食の意義や役割についての理解や関心を深める週間として、冬期休業と重ならない1月24日から30日までの間が「**全国学校給食週間**」となりました。

今年度は、地産地消として「東京都の食」にスポットを当てた給食を提供します。

学校給食の移り変わり

明治22年



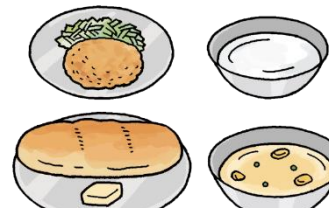
おにぎり・塩さけ・
菜の漬物

昭和22年



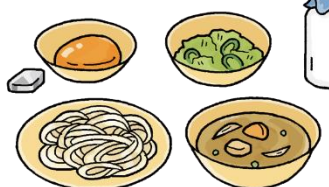
ミルク(脱脂粉乳)・
トマトシチュー

昭和25年



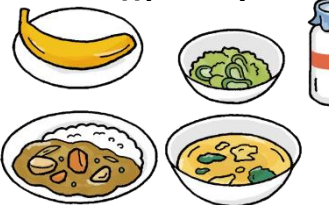
コッパン・ミルク(脱脂粉乳)・
ポタージュスープ・コロケ・
せんきゃべツ・マーガリン

昭和40年



ソフトめんのカレーあんかけ・
牛乳・甘酢あえ・果物(黄桃)・
チーズ

昭和52年



カレーライス・牛乳・塩もみ・
果物(バナナ)・スープ

現在の給食



地場産物を活用した、さまざまな給食が作られています。



給食の思い出はありますか？

学校給食は長く続いていて、保護者の方たちも食べてきた人が多いと思います。好きだった献立や印象深いできごとなどをぜひ家族で話題にしてみてください。



1月の行事食について

1月9日 人日の節句
・七草汁

1月7日は「人日の節句」です。七草の節句ともよばれ、一年間の無事を祈り、春の七草が入った七草がゆを食べる風習があります。給食では七草汁にしました。

1月10日 鏡開き
・おしるこ



鏡開きは、一般的に1月11日に行われています。正月にお供えした鏡もちを下げて、一年間の無病息災を祈願して食べる行事です。鏡もちは、年神様へお供えした神聖なものなので、刃物で切るのではなく、木槌や手などで小さく割って食べます。